

救急医療連携体制検討ワーキンググループ第1回会議の主な意見

1 全体

- ・患者の搬送時間の短縮と消防の負担軽減に役立つような仕組みの導入には賛成である。
- ・ICT導入により効率的なシステムが出来る。

2 応需情報

- ・救急搬送よりも、一般の方への病院紹介をする場合の活用が多い。
- ・1次救急病院へ搬送可能かどうかの判断の助けにはなるが、経験により分かる部分も多い。
- ・現場の多忙により入力されていない応需情報入力が課題。

3 搬送実績

- ・手術はだめだけど、カテーテルはO.Kというように、細かい情報が分かればより良い。
- ・他病院の受入情報の共有は、いい意味での競争になればいい。
- ・三次医療機関への再紹介にも役立つ。
- ・三次医療機関の状況が分かればいい。
- ・応需情報の見える化は大事。

4 動画

- ・画像が揃えば準備が出来るので有難い。
- ・事前の動画があると受入れの判断に役立つ。
- ・特に事故の搬送の場合に目に見える画像の伝送システムはいい。
- ・リアルタイムの画像は大事。

5 課題

- ・新しいシステムの導入には慣れと医療機関の協力が求められる。
- ・設置や維持管理費の負担が課題。
- ・職員のパソコンに対する拒否反応や電波不感地帯の改善の問題がある。
- ・医療圏が県外に跨っているため、県外との連携も必要である。

6 その他

- ・消防と医師の間に人を置いてコーディネートする等、ハード面だけでなくソフト面も一体で整備する必要。
- ・集団災害発生の際の活用として、HPの受入可能人数が分かるシステムの応用。